子供も教師も学びやすい環境づくり

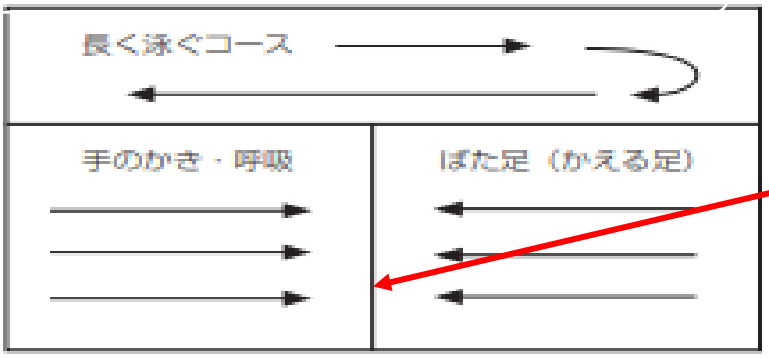
課題

- クロール、平泳ぎの達成率　３～５年生の数値は、低下傾向が続いている。
- ６年生泳ぎ続ける力　クロールと平泳ぎの５０ｍの数値が低下。
- 暑さ対策　猛暑が原因で、十分な指導ができなかったとの意見あり。

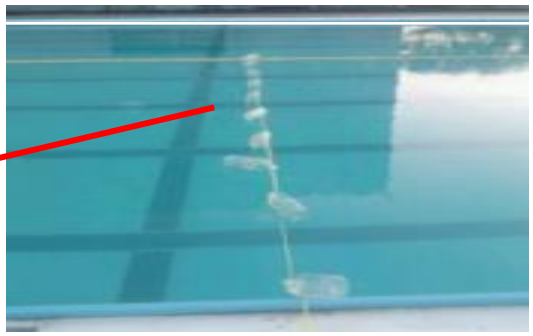
【学習場面の設定】

表面で示したように、6年生のクロール、平泳ぎ25mの記録の上昇の一方で、長い距離を泳ぎ続けることに課題がありました。25mを泳げる子がそこで満足せず、次のステップに自分から挑戦できるような学習場面の設定が重要と考えられます。個人の能力差の大きい水泳授業では、場面の設定を明確にすることで、児童は自分に合ったコースや補助具を選択して練習でき、教師は効果的な個別指導が行いやすくなります。

自分に合ったコース設定の例



ビニールテープとペットボトルで簡易的なコースロープ設置の例



【参考】文部科学省　学校体育実技指導資料第４集「水泳指導の手引（三訂版）」

【暑さ対策】

各校からの意見に、熱中症の危険が高い日が多かったことで、予定していた回数の水泳授業が行えなかったとの意見がありました。特に今年度は気温が高く、児童の体調管理に気を配って指導された先生が多かったと思います。

全国熱中症搬送者数　平成２０年…２３０７１人

過去最多　令和　６年…９７５７８人

４倍以上

総務省「５月～９月の熱中症による救急搬送状況」　※年齢が高いほど搬送者数が多い

猛暑を見通した、学習計画や環境設定が必要

例①水泳授業の開始時期を例年通りでなく、早めるよう検討する。
例②事前に教室で学習コースや補助具の使用方法について説明し、
　　お手本動画や資料を配布して、泳ぎ方について指導しておく。
例③プールサイドに児童用テントを設置する。
例④授業計画を立て、複数教員による管理体制を整える。